

認知症を理解する



認知症とはどんな病気？

認知症は、様々な原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなるために起こる脳の病気です。物忘れがひどくなったり、できていたことができなくなり、日常生活に支障がある状態をいいます。

■認知症と老化による物忘れの違い

認知症による物忘れ	老化による物忘れ
体験の全部を忘れる ご飯を食べた後、食べたこと自体を忘れてしまう。	体験の一部を忘れる ご飯を食べた後、食べた物を忘れることがある。
物忘れの自覚がない 忘れていること自体に気づかなくなる。 ヒントを出されても思い出せない。	物忘れの自覚がある 自分で忘れっぽいことを理解している。 ヒントを出されたら思い出せる。
親しい人やなじみの場所がわからなくなる 家族の顔や自宅の場所がわからなくなる。	親しい人やなじみのある場所は忘れない 毎日一緒にいる家族や自宅の場所を忘れることはない。
性格に変化がある 怒りっぽくなったり、頑固になったりする。	性格は変わらない 性格や態度に変化はない。

※日常生活の中での「物忘れ」は年を重ねると誰にでも出てくるものですが、認知症は老化による「物忘れ」とは異なります。その「物忘れ」が認知症によるものか、老化によるものかの違いを知っておくことが大切です。

■主な認知症のタイプ別特徴

アルツハイマー型認知症



記憶障害が著しく、最近の記憶（短期記憶）が不得意になるのが特徴です。一番多いタイプの認知症です。

【症状の例】

- ・少し前のできごとを忘れる
- ・同じことを何度も聞く
- ・日にちがわからなくなる

脳血管性認知症



記憶に問題があっても、理解力や判断力がある程度保たれているのが特徴です。（まだら認知症）

【症状の例】

- ・意欲の低下
- ・手足に麻痺がある
- ・言葉が出てこない

レビー小体型認知症



物忘れは比較的軽いですが、うつ状態や幻視、病状の波（変化）が大きいことが特徴です。

【症状の例】

- ・いないはずの人や虫が見えると言う
- ・夜中に寝ぼけて大声を出す

前頭側頭型認知症（前頭側頭葉変性症）



意欲や理性、感情をコントロールすることが難しくなります。自己中心的な性格に変わり、反社会的・反道徳的な行動をとるのが特徴です。

【症状の例】

- ・店の商品を勝手に持ってきてしまう
- ・決まった時間に同じ行動をとる

※この他にも、正常圧水頭症、甲状腺機能低下症、慢性硬膜下血腫などの病気によっても認知症のような症状が出る場合があります。これらは適切な治療（手術や服薬など）によって症状を改善することが可能です。